

企業名：ソディック

レポート名：統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

ソディック社は、古川氏の代表取締役社長就任を機に、2019年から新たに長期経営計画を策定した。この計画は、ソディック社の原点に立ち返り、「創造」「実行」「苦労・克服」という理念をもとに豊かな未来へつなげる技術を磨き、組織体制、ガバナンス体制の変革や、2017年に起こった従業員過労死事件の反省を踏まえ、「人を大切にする経営」を心がけるものである。

実績を鑑みるに、この計画は概ね達成されそうだが、「人を大切にする経営」については、数値的に改善されている部分もあるものの、現場が主観的に改善を感じているかが不明瞭であるため、なにかしらのアンケート結果を載せるなどの、現場の声が分かりやすく示されていると、「人を大切にする経営」というのが伝わりやすいと感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

ソディック社は、会社の持つ高い技術力をもって、世界初の金属を素材とした3Dプリンターをはじめとする、革新的な商品を世に送り出しており、その力は会社の競争優位性の大きな一要因となっているように思われる。しかし、統合レポート2021でも言及があった通り、革新的な技術はしばしばより強い競争力をもった模倣をされる。そこでソディック社は、2022年2月より、会社と顧客をつなぐサービスである「Sodick Connect」を開始し、インターネットを通じた相互的で多種多様なアフターサービスを行うことによって、他製品への精神的なスイッチング・コストを高めており、それが競争優位性に繋がっている。以上を踏まえると、ソディック社は業界のなかでも競争優位性を獲得していると言える。

3. 競争優位性が持続するかどうか理解できるか

ソディック社の強みとして、業績に左右されない研究開発費の維持が行われていることや、多岐にわたる現場からのフィードバックが挙げられる。その中で、会社の持続的な発展に向けた4つの目標「進化するものづくりへの貢献」「人材の多様性の促進」「環境マネジメントへの対応」「ガバナンスの強化」を設定しており、それに向けて、各担当部署が直接的

に社長室に提言するという方式をとっている。

しかし、具体的な方策については、他企業との差別化が図られているとは到底言えず、具体的かつ抜本的な見直しが迫られる。また、CO₂の排出量削減をはじめとする、環境問題への対策が挙げられていたが、新工場の建設が行われた年には、二酸化炭素排出量の大幅な増加がみられた。そのため、これからハイエンドのみならず、ボリュームゾーンの顧客への商品訴求力を高めるといふ会社の方針通り事業を進めた場合、新たな設備の導入や、新工場の建設が見込まれるため、それに対する具体的な対策を示す必要がある。

4. 自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

組織に汎用的な人的資本の形成よりは、組織に特殊的な人的資本の育成に力を入れているように感じられた。しかし、研修や教育を通じて得ることのできるスキルを具体的にイメージすることが難しいと感じた。人財戦略を主眼に置いているとの記述もあったので、教育や研修を通じて、大きな成長を得ることが出来るのかもしれないが、統合レポートを読む限りでは、それが明瞭に伝わってはこなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

学生の視点としては、代表取締役社長や、取締役などの重役のみならず、実際に働いている現場の社員の意見や、そういった社員が現在働いている社内の様子が分かる写真が、たとえば見栄えのするものでなかったとしても、多いほうが会社の実情がより詳細に理解できたという気持ちになりやすく、会社に親しみをより持てると感じた。

また、この統合レポートが言及するところのものは多岐にわたっており、あまり変更のないであろうことも多いと感じた。そのため、統合レポートに書かれたすべての内容をアニュアルで発行する意義があまり伝わってこず、内容の簡素化も含めて、字数やページ数の削減を図ることで、より読みやすいレポートになると感じた。